



Dynamics 365 for Customer Engagement アダプタのご紹介

目次

■ Dynamics 365 for Customer Engagementアダプタ

- Dynamics 365 for Customer Engagementアダプタとは
- 連携イメージ
- 利用イメージ
- アダプタ機能一覧
- エンティティ読み取り処理
- エンティティ書き込み処理
- エンティティ削除処理

■ アダプタの接続設定

- 接続設定について
- 「接続先」の設定
- 「認証」の設定

Dynamics 365 for Customer Engagement アダプタ

Dynamics 365 for Customer Engagement アダプタとは

■ アプリケーションと連携

Microsoft社の製品である「Dynamics 365 for Customer Engagement（旧名称：Dynamics CRM）」のエンティティに対して、読み取り/書き込み/削除が実行できるアダプタです。

APIの知識がなくても、また、コーディングもすることなく、多種多様なシステムやデータとの連携が可能になりました。

● ポイント

DataSpiderなら、Dynamics 365 for Customer Engagementに作成された各種アプリケーションとの連携が可能です。

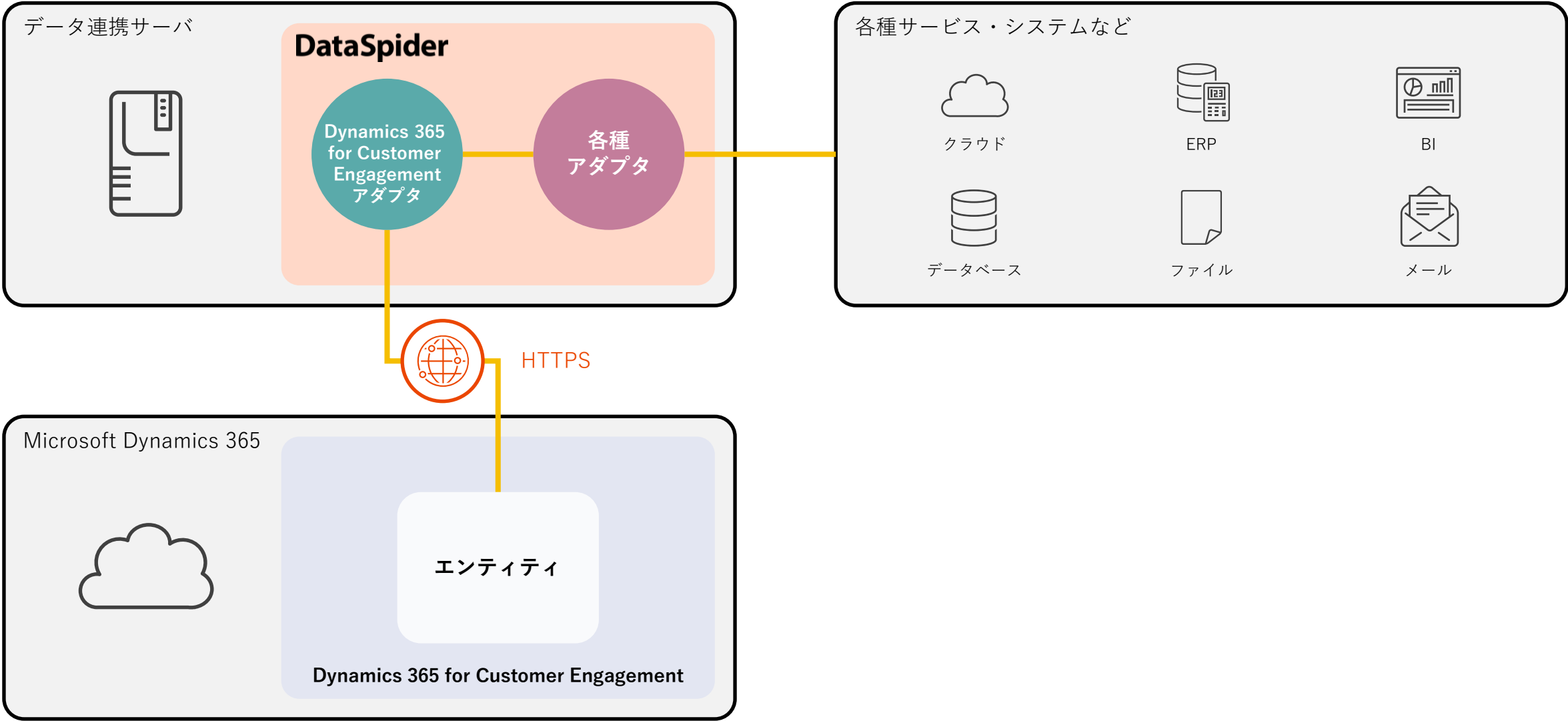
• SFA/CRM 連携

フロントエンドの「Dynamics 365 for Customer Engagement」と、バックエンドの ERP パッケージ等との連携が可能になりました。様々な外部データと組み合わせての活用や、Dynamics 365 for Customer Engagement内のデータを様々な外部システムで活用することが可能になりました。

• BI・帳票アプリケーションとの連携

「Dynamics 365 for Customer Engagement」から抽出したデータを、外部の BI ツールなどで分析することや、帳票として出力できるようになりました。

連携イメージ

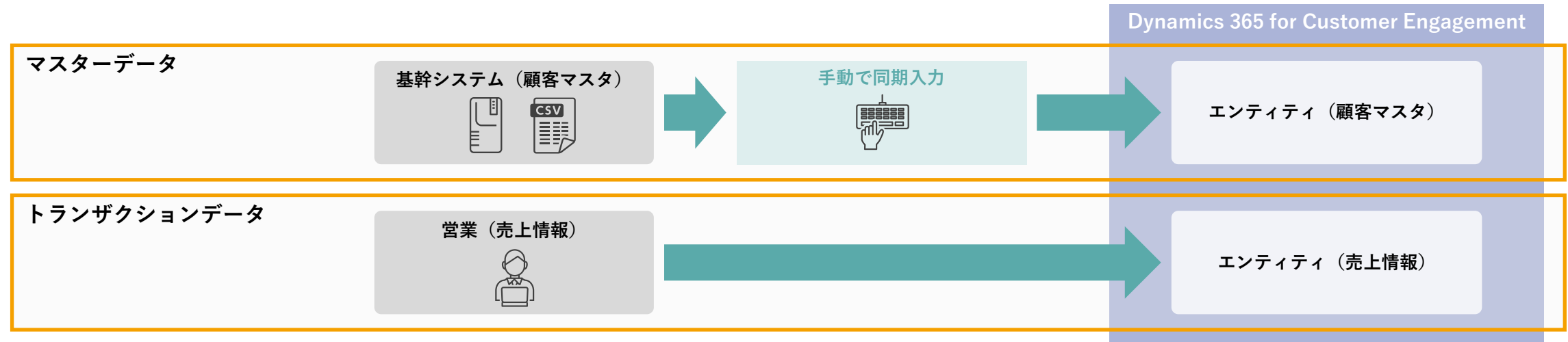


利用イメージ（課題）



Dynamics 365 for Customer Engagementを活用しはじめたが、基幹システムも併用しており、マスターデータなどを手動で同期している。

基幹システムを補助するため、Dynamics 365 for Customer Engagementを導入し、営業担当が売上情報を入力している。しかし、顧客マスタなどのマスターデータは基幹システムから同期する必要があるが、現状は手動で実施しており、多くの工数が掛かっている。また、BIツールで分析なども行いたい、運用の手間がネックとなり導入が進まない。

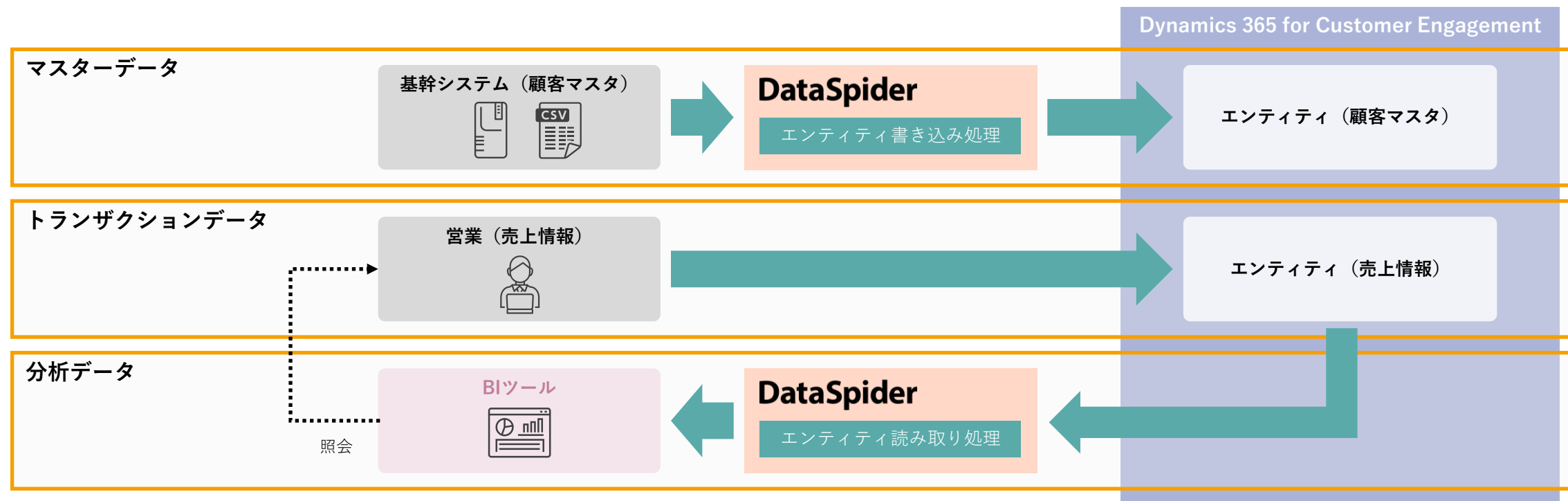


利用イメージ（解決）



同期を自動化し、BIツール連携を実現します。

DataSpiderが基幹システムからデータを読み取り、Dynamics 365 for Customer Engagementへの書き込みを自動化。また、BIツールへのデータ連携も複雑な作り込みをせず実現します。

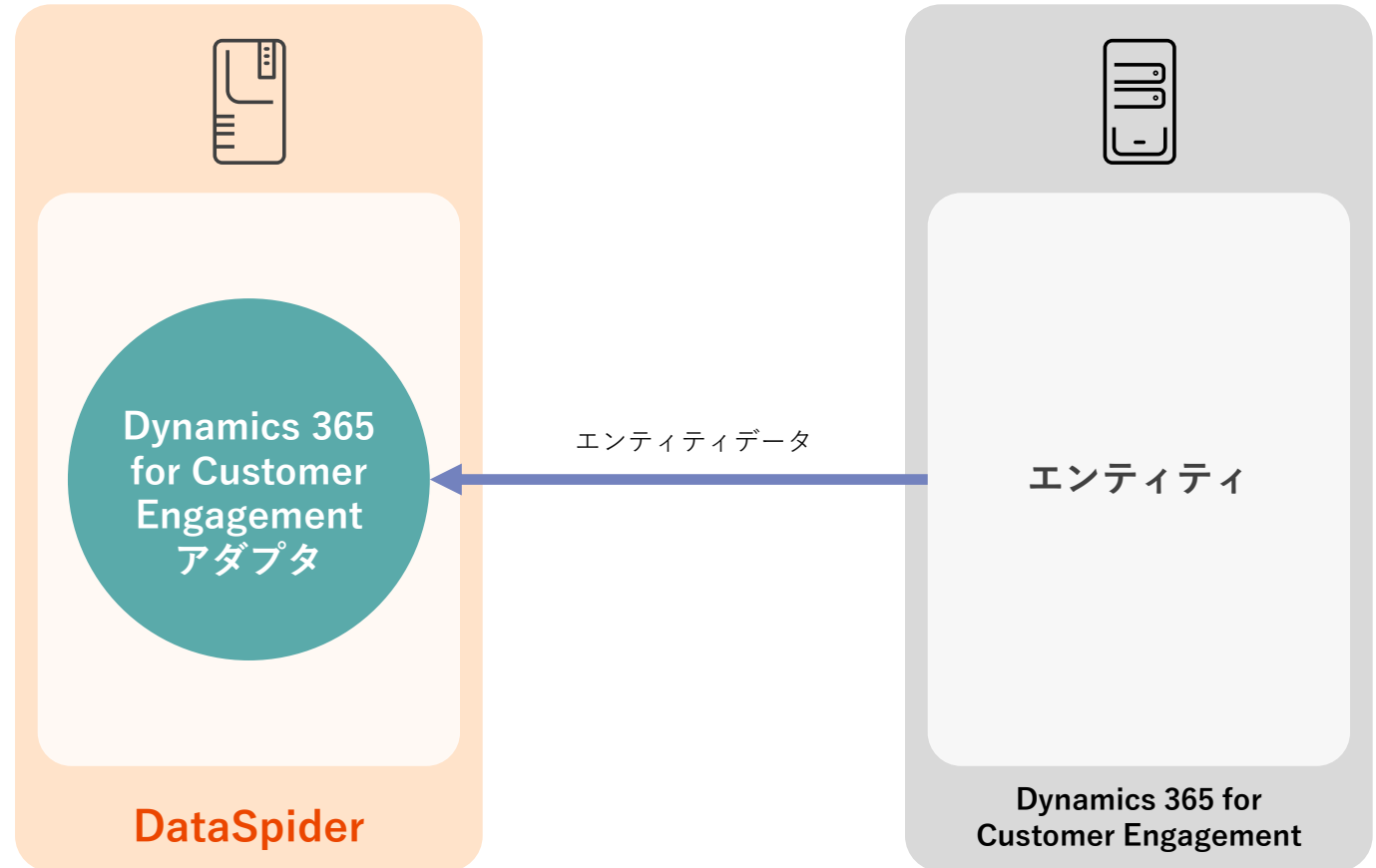


種別	名称	概要説明
処理	エンティティ読み取り	エンティティを読み取ります。
	エンティティ書き込み	入力データをエンティティに書き込みます。
	エンティティ削除	エンティティを削除します。

テーブル読み取り処理

エンティティを読み取ります。

The screenshot shows a software window titled '新規エンティティ読み取り処理' (New Entity Reading Processing). Inside, there's a sub-header 'エンティティ読み取り処理' and '新規エンティティ読み取り処理'. A text field '名前(N):' contains 'get_entity'. Below are tabs for '必須設定' (Required Settings), 'クエリ設定' (Query Settings), 'データ処理方式' (Data Processing Method), and 'コメント' (Comments). Under '必須設定', there are dropdowns for '接続先(Q):' and '認証(I):', both with '(選択してください)' (Please select). A button 'エンティティセット名一覧を更新(E)' (Update Entity Set Name List) is next. Below is a 'リソースパス(S):' field with a red 'x' icon. A checkbox 'フィールド表示名を取得する(W)' (Get field display name) is present. A button 'フィールド定義を更新(L)' (Update field definition) is next. A 'フィールド定義' (Field Definition) table is shown with columns: '読み取り対象' (Reading Target), 'フィールド名' (Field Name), 'フィールド表示名' (Field Display Name), and '型' (Type). The table is currently empty. At the bottom are '完了(E)' (Finish) and '取消' (Cancel) buttons.

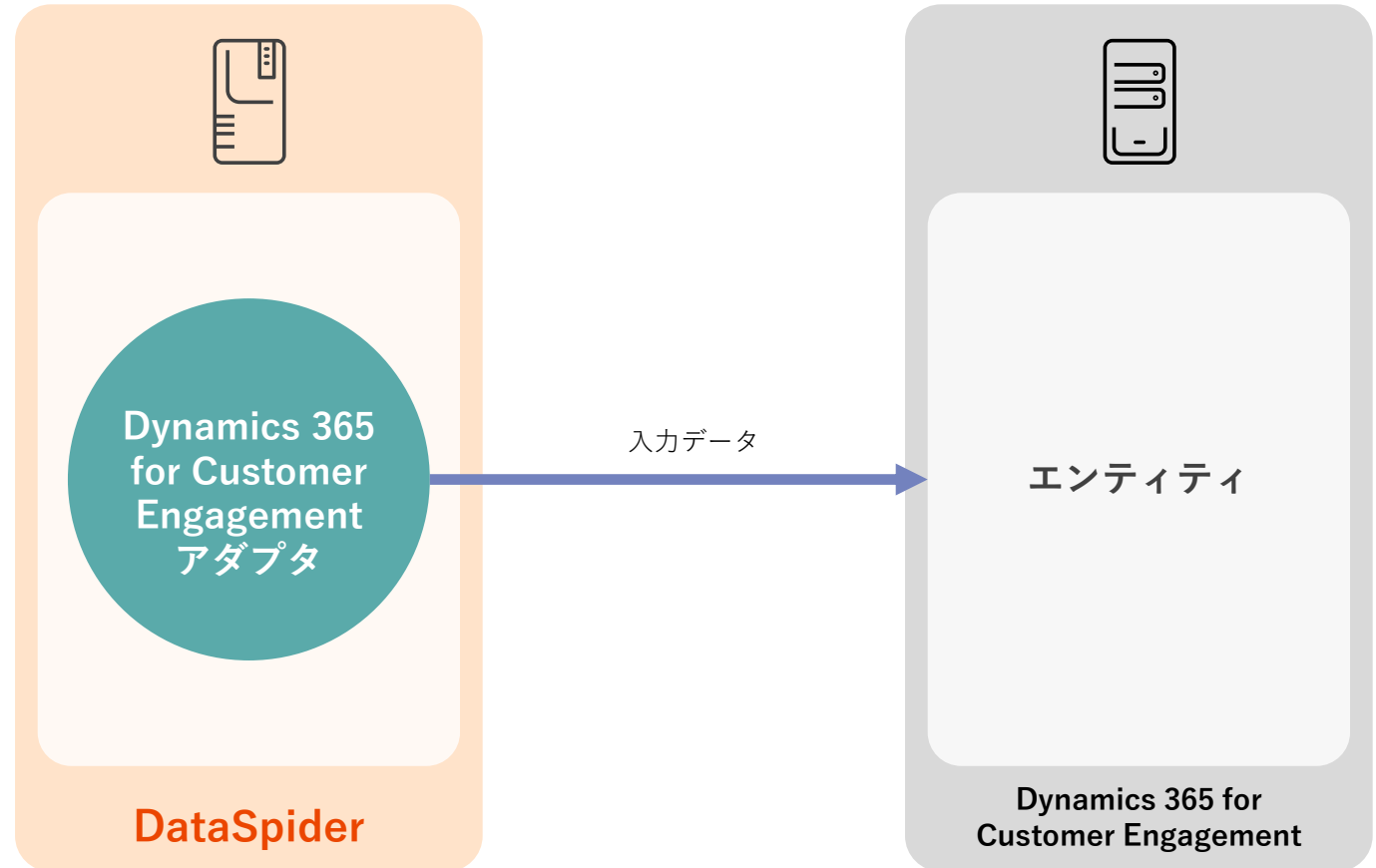


エンティティ書き込み処理

入力データをエンティティに書き込みます。

入力スキーマを編集することで、関連するエンティティの作成/更新や関連の解除を行う事ができます。

The screenshot shows a software window titled '新規エンティティ書き込み処理' (New Entity Write Processing). Inside, there's a sub-header 'エンティティ書き込み処理' and '新規エンティティ書き込み処理'. The form includes fields for '名前(N):' (set to 'put_entity'), '入力データ(I):' (set to '(入力データなし)'), and tabs for '必須設定', 'キー設定', 'オプション設定', 'データ処理方式', and 'コメント'. Below these are dropdowns for '接続先(Q):' and '認証(I):', both set to '(選択してください)'. There are also links for 'エンティティセット名一覧を更新(E)' and 'フィールド定義を更新(L)'. A 'リソースパス(S):' field with a red 'x' icon is present, along with a checkbox 'フィールド表示名を取得する(W)'. At the bottom, there's a 'フィールド定義' section with a table header: '書き込み対象', '主キー', 'フィールド名', 'フィールド表示名', and '型'. The table is currently empty. At the very bottom are '完了(E)' and '取消' buttons.

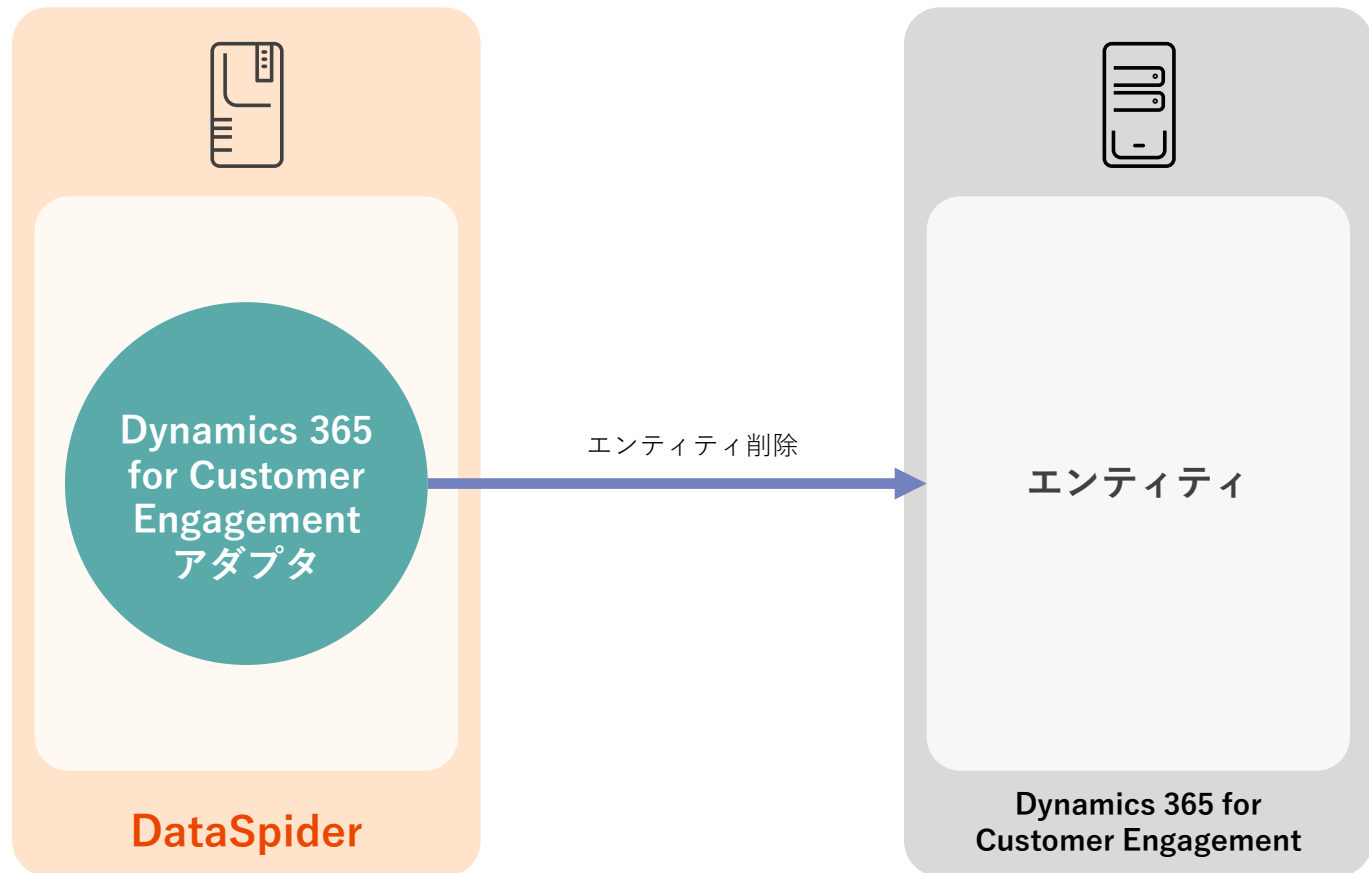


エンティティ削除処理

エンティティを削除します。

The screenshot shows a window titled '新規エンティティ削除処理' (New Entity Deletion Process). Inside, there's a section 'エンティティ削除処理' (Entity Deletion Process) with a sub-header '新規エンティティ削除処理' (New Entity Deletion Process). The form includes fields for '名前(N):' (Name) with the value 'delete_entity', and '入力データ(I):' (Input Data) with the value '(入力データなし)' (No input data). Below these are tabs for '必須設定' (Required Settings), 'オプション設定' (Optional Settings), 'データ処理方式' (Data Processing Method), and 'コメント' (Comment). The '必須設定' tab is active, showing '接続先(Q):' (Destination) and '認証(I):' (Authentication) both set to '(選択してください)' (Please select). There are also links for 'エンティティセット名一覧を更新(E)' (Update entity set name list) and 'フィールド定義を更新(L)' (Update field definition). A 'リソースパス(S):' (Resource path) field is present with a red 'X' icon. A checkbox 'フィールド表示名を取得する(W)' (Get field display name) is unchecked. At the bottom, there's a 'フィールド定義' (Field Definition) table with columns '主キー' (Primary Key), 'フィールド名' (Field Name), 'フィールド表示名' (Field Display Name), and '型' (Type). The table is currently empty. At the bottom right, there are '完了(E)' (Finish) and '取消' (Cancel) buttons.

主キー	フィールド名	フィールド表示名	型
-----	--------	----------	---



アダプタの接続設定

接続設定について

Dynamics CRMアダプタの各オペレーションコンポーネントを利用する場合には、「接続先」および「認証」を指定するため、それぞれについて、グローバルリソースを作成する必要があります。

新規エンティティ読み取り処理

エンティティ読み取り処理

新規エンティティ読み取り処理

名前(N): get_entity

必須設定 クエリ設定 データ処理方式 コメント

接続先(Q): (選択してください)

認証(I): (選択してください)

エンティティセット名一覧を更新(E)

リソースパス(S):

☐ フィールド表示名を取得する(W)

フィールド定義を更新(L)

フィールド定義

☐ 読み取り対象	フィールド名	フィールド表示名	型

完了(E) 取消

「接続先」及び「認証」が設定されれば、「リソースパス」、「フィールド定義」が表示されます。

OpenID Connect 1.0の接続設定を行います。
接続設定を行うとリフレッシュトークンが取得できます。
アクセストークンは、有効期間があります。

「接続先」：利用するDynamics 365 for Customer Engagementのインスタンスを指定します。

新しいグローバルリソースの作成

接続の設定

リソースへの接続に必要な情報を入力します。

接続名(N): Dynamics 365 for Customer Engagement接続設定

種別(Y): デフォルト

接続タイプ(B): Dynamics 365 for Customer Engagement (Dynamics 365 for Customer...)

必須設定 セキュリティ

サービスのルートURL(S):

「認証」：「接続先」インスタンスAPI利用の認証・認可を行います。

新しいグローバルリソースの作成

接続の設定

リソースへの接続に必要な情報を入力します。

接続名(N): OpenID Connect 1.0認証設定

種別(Y): デフォルト

接続タイプ(B): OAuth 2.0 (OpenID Connect 1.0認証設定)

必須設定 詳細設定 セキュリティ

クライアントID(C):

クライアントシークレット(S):

リダイレクトURI(E):

OpenID Configuration URL:

「接続先」の設定

サービスのルートURLの確認場所 (1/2)

「開発者リソース」を確認できるDynamics 365 ユーザーでログインし、「設定」→「カスタマイズ」→「開発者リソース」をクリックします。



サービスのルートURLの確認場所（2/2）

「インスタンスのWeb API」にある「サービスのルートURL」を確認します。接続設定で使用するため、設定値を控えておきます。

Dynamics 365 ▾ **設定** ▾ カスタマイズ

開発者リソース

はじめに

[デベロッパー センター](#) [開発者フォーラム](#) [SDK NuGet パッケージ](#)

[SDK のダウンロード](#) [サンプル コード](#) [開発者向けの概要](#)

Dynamics 365 のこのインスタンスにアプリを接続する

インスタンスの Web API
Dynamics 365 のこのインスタンスへのアクセスを提供する HTTP REST API です。詳細については、以下を参照してください。 [Microsoft Dynamics 365 Web API を参照してください。](#)

サービスのルート URL... `https://[redacted].dynamics.com/api/data/v9.1/`

[OData メタデータのダウンロード](#)

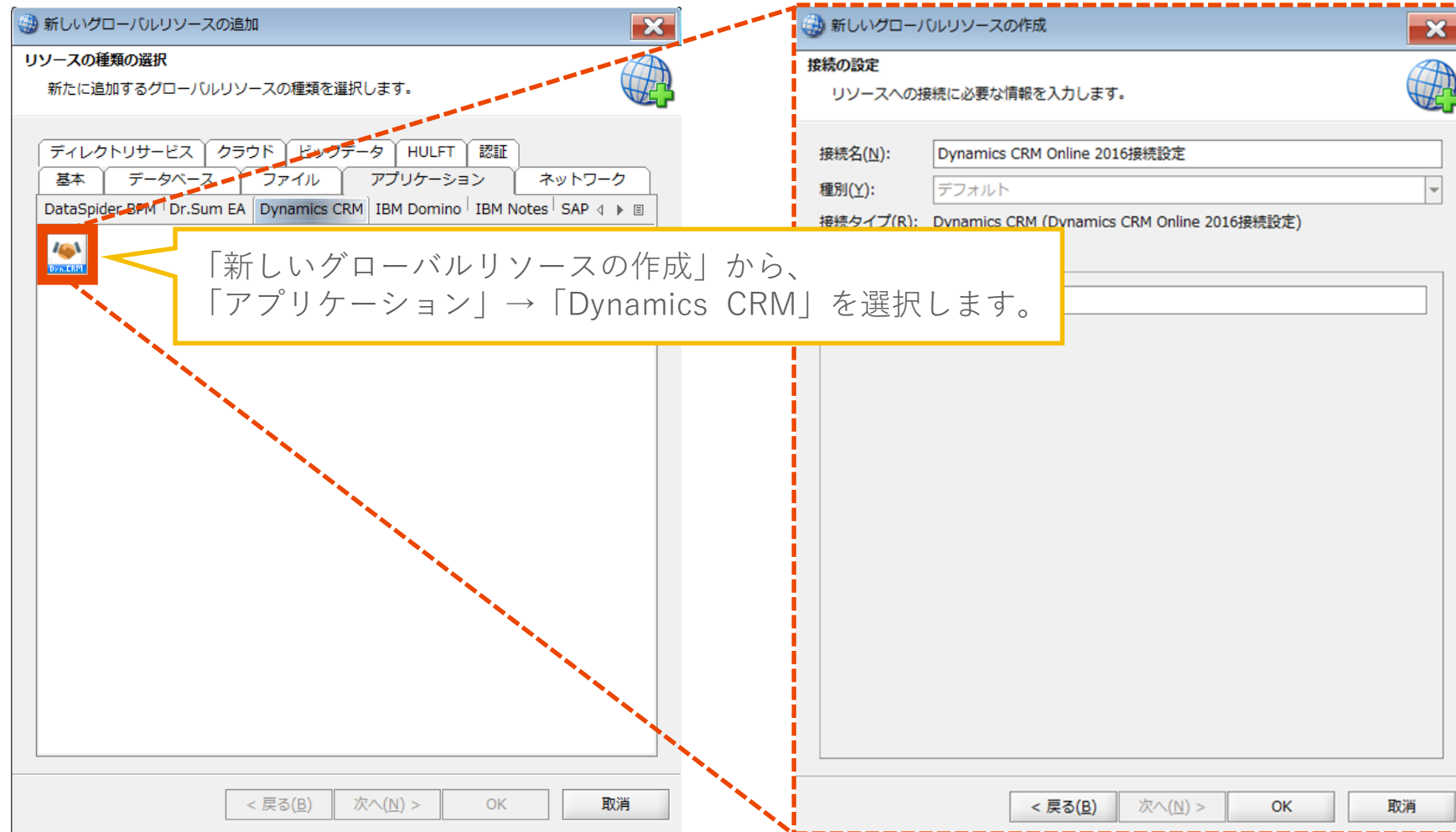
組織のサービス
Dynamics 365 のこのインスタンスへのアクセスを提供する SOAP サービスです。詳細については、以下を参照してください。 [IOrganizationService Web サービスを使用してデータまたはメタデータの読み取りと書き込みを行います。](#)

エンドポイント アドレス `https://[redacted].dynamics.com/XRMServices/2011`

P.18 「Dynamics CRM グローバル リソース の必須設定」 および、
P.33 で 「OpenID Connect 1.0 認証設定」 の 「詳細設定の値を入力する」 際に一部を使用する値のため、
「**サービスのルートURL**」 の設定値を別途テキストファイル等にコピーして控えてください。

Dynamics CRMグローバルリソースの作成 (1/2)

DataSpider Studio のコントロールパネルから [グローバルリソースの設定] を開く。



The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "新しいグローバルリソースの作成" (Create new global resource). The main section is "接続の設定" (Connection Settings), which includes instructions to enter information needed for connection. Fields include "接続名(N):" set to "Dynamics CRM Online 2016接続設定", "種別(Y):" set to "デフォルト", and "接続タイプ(R):" set to "Dynamics CRM (Dynamics CRM Online 2016接続設定)". Below these are tabs for "必須設定" (Required Settings) and "セキュリティ" (Security). Under "必須設定", the "サービスのルートURL(S):" field contains the URL "https://hondacrm.dynamics.com/api/data/v9.1/", which is highlighted by a red rectangle. A yellow callout bubble points to this field with the text "「サービス・ルートURL」を設定します。" (Set the service root URL.). At the bottom are buttons for "< 戻る(B)", "次へ(N) >", "OK", and "取消".

「認証」の設定

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (1/11)

「認証」のグローバルリソースを作成する前提として、DataSpider ServistaをAzure ADで保護されたAPIを利用するアプリケーションとしてAzure ADテナントに登録します。

Azure ポータルから、「アプリの登録」→「新規登録」をクリック

Microsoft Azure

ホーム > アプリの登録

アプリの登録

+ 新規登録 | エンドポイント | トラブルシューティング | Got feedback?

新しく強化されたアプリの登録へようこそ (一般提供になりました)。新機能をご確認ください →

⚠ アプリの登録 (レガシ) からの変更点を確認する場合 [詳細情報](#)
アプリの登録 (レガシ) の使用を続けますか? [前に戻って理由をお聞かせください](#)

すべてのアプリケーション | 所有しているアプリケーション

🔍 名前またはアプリケーション ID を入力し始めると結果がフィルター処理されます

表示名	アプリケーション (クライアント) ID	作成日時	証明書とシークレット
DC Dynamics CRM Adapter Test 20190	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	2019年2月...	✓ 現在
TE testdemo20190520	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	2019年5月...	✓ 現在

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (2/11)

アプリケーションの「名前」、「サポートされているアカウントの種類」、「リダイレクトURI」を設定・選択し、登録します。

ホーム > アプリの登録 > アプリケーションの登録

アプリケーションの登録

*** 名前**
このアプリケーションのユーザー向け表示名 (後ほど変更できます)。
Dynamics CRM_demo ✓

サポートされているアカウントの種類
このアプリケーションを使用したりこの API にアクセスしたりできるのはだれですか?
☒ この組織のディレクトリ内のアカウントのみ (推奨)
☐ 任意の組織のディレクトリ内のアカウント
☐ 任意の組織のディレクトリ内のアカウントと、個人用の Microsoft アカウント (Skype、Xbox、Outlook.com など)
[選択に関する詳細...](#)

リダイレクト URI (省略可能)
ユーザー認証が成功すると、この URI に認証応答を返します。この時点での指定は省略可能で、後ほど変更できますが、ほとんどの認証シナリオで値が必要となります。
Web ✓ http://localhost:7700/dataspider/openidconnect_1_0 ✓

続行すると、Microsoft プラットフォーム ポリシーに同意したことになります [?] [詳細を見る](#)

登録

- 名前
任意の名称を設定
- サポートされているアカウントの種類
環境に即したアカウントを設定
- リダイレクトURI
 - アプリケーションの種類
Web
 - リダイレクトURI
http://<DataSpiderServer稼働OSのホスト名またはIPアドレス>:<ポート番号>/dataspider/openidconnect_1_0

P.32で「必須設定の値を入力する」際に使用する値のため、「**リダイレクトURI**」の設定値を別途テキストファイル等にコピーして控えておきます。

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (3/11)

アプリケーションの登録が完了すると、「概要」画面に遷移するので、画面上の「アプリケーション(クライアント)ID」を確認します。

ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo

Dynamics CRM_demo

概要

クイック スタート

管理

ブランド

認証

証明書とシークレット

API のアクセス許可

API の公開

所有者

マニフェスト

サポート + トラブルシューティング

トラブルシューティング

新しいサポート要求

削除 エンドポイント

表示名
Dynamics CRM_demo

サポートされているアカウントの種類
所属する組織のみ

アプリケーション (クライアント) ID

ディレクトリ (テナント) ID

オブジェクト ID

新しく強化されたアプリの登録へようこそ。アプリの登録 (レガシ) からの変更点を確認することをご希望ですか? [詳細](#)

API の呼び出し

ドキュメント

Microsoft ID プラットフォーム
認証シナリオ
認証ライブラリ
コード サンプル

P.32で「必須設定の値を入力する」際に使用する値のため、「**アプリケーション(クライアント)ID**」の設定値を別途テキストファイル等にコピーして控えておきます。

Azure Active Directoryでのアプリ登録（4/11）

トークンの要求時に自身の ID を証明するために使用するクライアントシークレットを取得します。

ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo - 証明書とシークレット

Dynamics CRM_demo - 証明書とシークレット

資格情報は、Web アドレスの指定が可能な場所で (HTTPS スキーマを使用して) トークンを受信する際に、アプリケーションが認証サービスに対して自身を識別できるようにするためのものです。より高いレベルで保証するには、資格情報として (クライアント シークレットではなく) 証明書を使うことをお勧めします。

証明書

証明書は、トークンの要求時にアプリケーションの ID を証明するシークレットとして使用できます。公開キーとも呼ばれます。

↑ 証明書のアップロード

クライアント シークレット

トークンの要求時にアプリケーションが自身の ID を証明するために使用する秘密の文字列です。アプリケーション パスワードと呼ばれることもあります。

+ 新しいクライアント シークレット

説明	有効期限	値
----	------	---

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (5/11)

「クライアントシークレットの追加」画面にて「説明」、「有効期限」を設定・選択し、追加します。

クライアント シークレットの追加

説明
Secret Key

有効期限
☐ 1 年
☐ 2 年
☒ なし

追加 キャンセル

クライアント シークレット

トークンの要求時にアプリケーションが自身の ID を証明するために使用する秘密の文字列です。アプリケーション パスワードと呼ばれることもあります。

+ 新しいクライアント シークレット

説明	有効期限	値
----	------	---

ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo - 証明書とシークレット

Dynamics CRM_demo - 証明書とシークレット

概要

クイックスタート

管理

ブランド

認証

証明書とシークレット

APIのアクセス許可

APIの公開

所有者

マニフェスト

サポート + トラブルシューティング

トラブルシューティング

新しいサポート要求

新しいクライアント シークレット値をコピーしてください。このブレードから移動した後は、シークレット値を取得できなくなります。

資格情報は、Web アドレスの指定が可能な場所で (HTTPS スキーマを使用して) トークンを受信する際に、アプリケーションが認証サービスに対して自身を識別できるようにするためのものです。より高いレベルで保証するには、資格情報として (クライアント シークレットではなく) 証明書を使用することをお勧めします。

証明書

証明書は、トークンの要求時にアプリケーションの ID を証明するシークレットとして使用できます。公開キーとも呼ばれます。

証明書のアップロード

拇印	開始日	有効期限
このアプリケーションには証明書が設定されていません。		

クライアント

トークンの要求時

新しいクライアント シークレット

説明	有効期限	値
Secret Key	2299年12月3...	証明書とシークレット値をコピーしてください。このブレードから移動した後は、シークレット値を取得できなくなります。

Azure Active Directoryでのアプリ登録（7/11）

登録したアプリケーションにアクセス許可の追加を行います。

ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo - API のアクセス許可

Dynamics CRM_demo - API のアクセス許可

API のアクセス許可

アプリケーションが API を使用する承認を得るには、アクセス許可を要求します。これらのアクセス許可は、同意を得るプロセスの間に表示
ザーがアクセスを許可/拒否する機会が与えられます。

+ アクセス許可の追加

API / アクセス許可の名前

▼ Microsoft Graph (1)

権限	委任済み	サインインとユーザープロファイルの読み取り	
User.Read	委任済み	Sign in and read user profile	-

これらは、このアプリケーションが静的に要求するアクセス許可です。コードを使用して、ユーザーの同意が可能なアクセス許
可を動的に要求することもできます。 [アクセス許可を要求するためのベスト プラクティスを参照する](#)

「APIのアクセス許可」→「アクセス許可の追加」をクリック

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (8/11)

「Microsoft API」の中から「Dynamics CRM」を選択します。

The screenshot shows the Azure Active Directory portal interface for registering an application. The breadcrumb navigation at the top reads: ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo. The left-hand navigation pane includes links for 概要, クイック スタート, 管理, ブランド, 認証, 証明書とシークレット, API のアクセス許可 (which is highlighted), API の公開, 所有者, and マニフェスト. The main content area is titled 'API アクセス許可の要求' and 'API を選択します'. It features three tabs: 'Microsoft API' (selected), '所属する組織で使用している API', and '自分の API'. Below the tabs is a grid of API options. The 'Dynamics CRM' option is highlighted with a red border. The grid includes the following APIs: Azure Rights Management Services, Azure Service Management, Data Export Service for Microsoft Dynamics 365, Dynamics 365 Business Central, Dynamics CRM, Flow Service, Intune, Office 365 Management APIs, and OneNote.

API を選択します		
Microsoft API	所属する組織で使用している API	自分の API
Azure Rights Management Services 検証済みのユーザーに、保護されたコンテンツの読み取りと書き込みを許可します	Azure Service Management Azure portal で利用できる機能の大部分へのプログラムによるアクセス	Data Export Service for Microsoft Dynamics 365 Microsoft Dynamics CRM 組織から外部宛先にデータをエクスポートします
Dynamics 365 Business Central Dynamics 365 Business Central のデータと機能へのプログラムによるアクセス	Dynamics CRM CRM ビジネス ソフトウェアと ERP システムの機能にアクセスします	Flow Service フロー テンプレートの埋め込みとフローの管理
Intune	Office 365 Management APIs	OneNote

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (9/11)

「アクセス許可」にチェックを入れ、「アクセス許可の追加」をクリックします。

The screenshot shows the Azure Active Directory portal interface for an application named 'Dynamics CRM_demo'. The left sidebar contains navigation links: Home > App Registrations > Dynamics CRM_demo, Summary, Quick Start, Management, Brand, Authentication, Certificates and Secrets, API Access Permissions (highlighted), API Public, Owners, and Manifest. The main content area is titled 'API Access Permissions' and includes a link to 'All APIs'. Below this, the 'Dynamics CRM' application is listed with its URL and a document icon. A section titled 'Types of access permissions required for the application' contains two boxes: 'Delegated access permissions' (highlighted with an orange box) and 'Application permissions'. The 'Delegated access permissions' box states that the application needs API access as a signed-in user. Below this, the 'Select access permissions' section shows a search bar and a list of permissions. The 'user_impersonation' permission is selected (checked) and highlighted with an orange box. At the bottom, the 'Add Access Permission' button is highlighted with an orange box, and an arrow points from the 'user_impersonation' permission box to it. Another arrow points from the 'Add Access Permission' button to the 'Add Access Permission' button.

ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo

Dynamics CRM_demo

概要

クイック スタート

管理

ブランド

認証

証明書とシークレット

API のアクセス許可

API の公開

所有者

マニフェスト

API アクセス許可の要求

すべての API

Dynamics CRM
https://admin.services.crm.dynamics.com/ ドキュメント

アプリケーションに必要なアクセス許可の種類

委任されたアクセス許可
アプリケーションは、サインインしたユーザーとして API にアクセスする必要があります。

アプリケーションの許可
アプリケーションは、サインインしたユーザーなしで、バックグラウンドサービスまたはデーモンとして実行されます。

アクセス許可を選択する

検索するテキストを入力

アクセス許可

☒ user_impersonation
Access Common Data Service as organization users

管理者の同意が必要

アクセス許可の追加

破棄

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (10/11)

「概要」画面に移動し、「エンドポイント」をクリックします。

ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo

Dynamics CRM_demo

概要

クイック スタート

管理

- ブランド
- 認証
- 証明書とシークレット
- API のアクセス許可
- API の公開
- 所有者
- マニフェスト

サポート + トラブルシューティング

- トラブルシューティング
- 新しいサポート要求

表示名
Dynamics CRM_demo

アプリケーション (クライアント) ID
7aff4097-6da1-4112-bc14-0987e6de577e

ディレクトリ (テナント) ID
351efc9e-c398-4d8c-9152-79913c7cf4ce

オブジェクト ID
079299dc-9afc-4c91-b181-6d8f06c6ed0d

サポートされているアカウントの種類
所属する組織のみ

リダイレクト URI
1 Web、0 パブリック クライアント

ローカル ディレクトリでのマネージド アプリケーション
サービス プリンシパルの作成

新しく強化されたアプリの登録へようこそ。アプリの登録 (レガシ) からの変更点を確認することをご希望ですか? [詳細情報](#)

API の呼び出し

ドキュメント

- Microsoft ID プラットフォーム
- 認証シナリオ
- 認証ライブラリ
- コード サンプル
- Microsoft Graph

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (11/11)

「OpenID Connect メタデータドキュメント」の値を確認します。

ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo

概要

クイック スタート

管理

ブランド

認証

証明書とシークレット

API のアクセス許可

API の公開

所有者

マニフェスト

サポート + トラブルシューティング

トラブルシューティング

新しいサポート要求

エンドポイント

OAuth 2.0 承認エンドポイント (v2)
https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/oauth2/v2.0/authorize

OAuth 2.0 トークン エンドポイント (v2)
https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/oauth2/v2.0/token

OAuth 2.0 承認エンドポイント (v1)
https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/oauth2/authorize

OAuth 2.0 トークン エンドポイント (v1)
https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/oauth2/token

OpenID Connect メタデータドキュメント
https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/v2.0/.well-known/openid-configuration

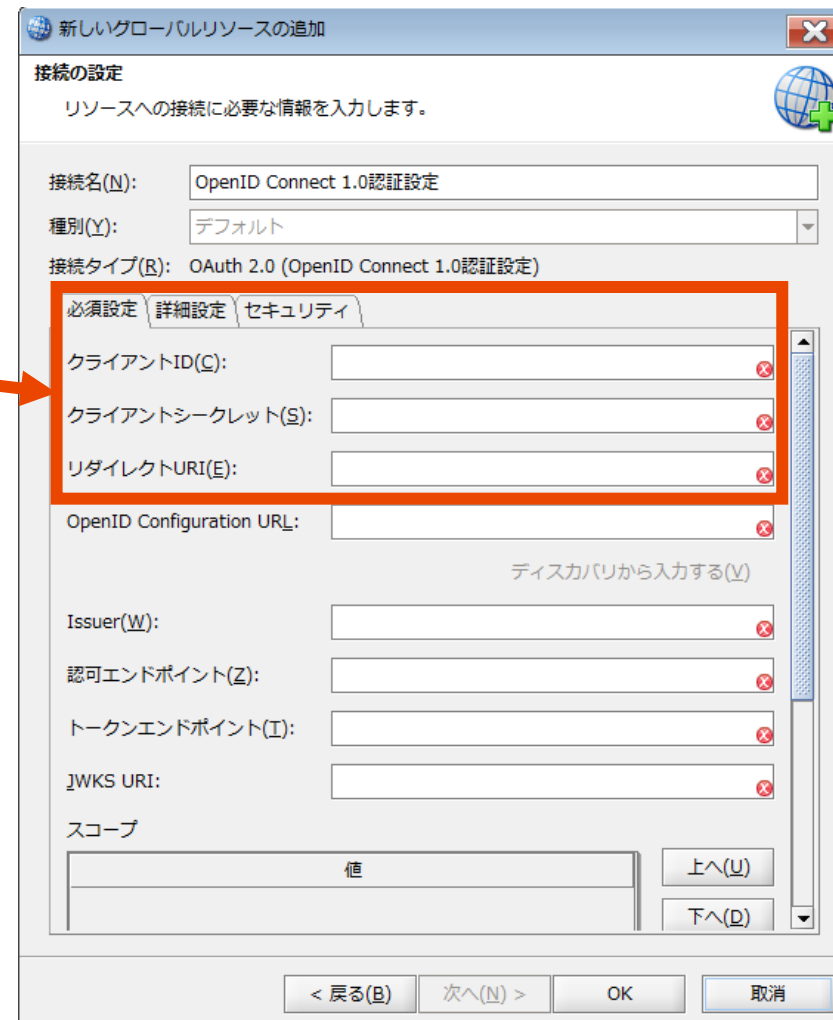
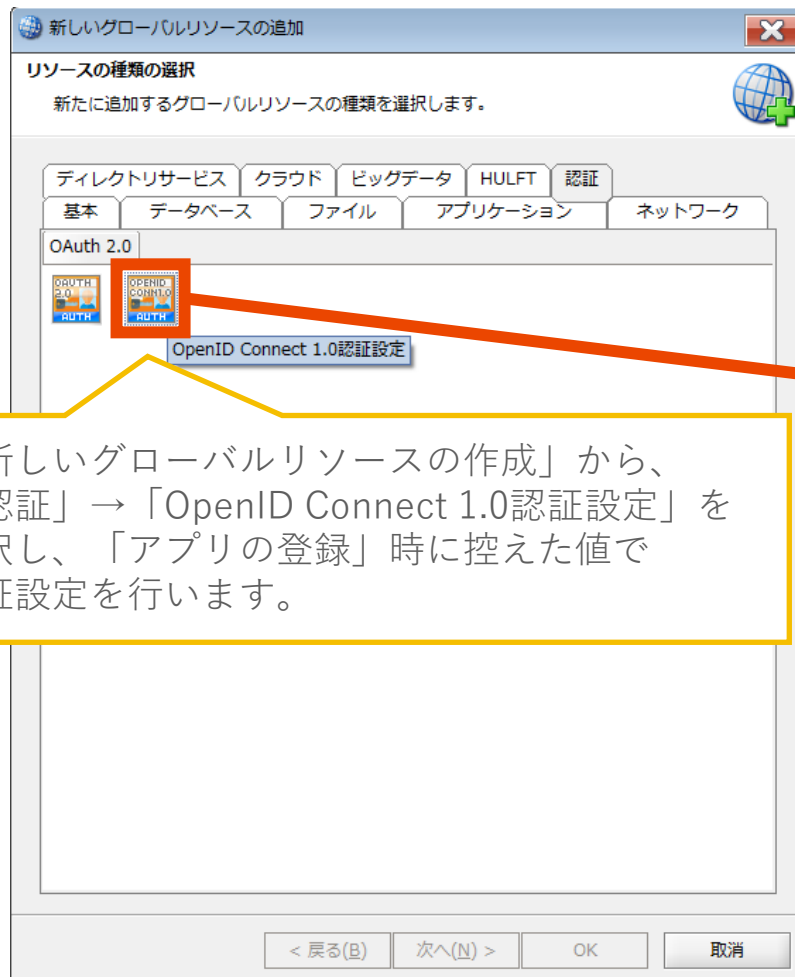
クリップボードにコピー

P.32で「必須設定の値を入力する」際に使用する値のため、
「/v2.0」を除去したURLを控えておきます。

https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/.well-known/openid-configuration

OpenID Connect 1.0認証設定の作成 (1/6)

新規にグローバルリソースを作成します。



OpenID Connect 1.0認証設定の作成 (2/6)

必須設定の値を入力します。

必須設定 詳細設定 セキュリティ

クライアントID(C):

クライアントシークレット(S):

リダイレクトURI(E):

OpenID Configuration URL:

ディスカバリから入力する(V)

「必須設定」タブの「クライアントID」、「クライアントシークレット」、「リダイレクトURI」、「OpenID Configuration URL」に値を設定します。設定後に、「ディスカバリから入力する」をクリックします。

- クライアントID
「アプリの登録」時の **アプリケーションID**
- クライアントシークレット
「アプリの登録」時の 証明書とシークレットで生成した **キーの値**
- リダイレクトURI
「アプリの登録」時の **リダイレクトURI**
`http://<DataSpiderServer稼働OSのホスト名>:<ポート番号>/dataspider/openidconnect_1_0`または IPアドレス
- OpenID Configuration URL
「アプリの登録」時の **テナントID をあてはめた下記URL**
`https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/.well-known/openid-configuration`

OpenID Connect 1.0認証設定の作成 (3/6)

詳細設定の値を入力します。

新しいグローバルリソースの追加

接続の設定

リソースへの接続に必要な情報を入力します。

接続名(N): OpenID Connect 1.0認証設定

種別(Y): デフォルト

接続タイプ(B): OAuth 2.0 (OpenID Connect 1.0認証設定)

必須設定 詳細設定 セキュリティ

クライアントID(C):

クライアントシークレット(S):

リダイレクトURI(E):

OpenID Configuration URL:

ディスカバリから入力する(V)

Issuer(W):

認可エンドポイント(Z):

トークンエンドポイント(T):

メタデータURI:

グループ

追加パラメータ

キー	値
resource	https://...dynamics.com

上へ(U)

下へ(D)

追加(A)

「詳細設定」タブの「追加パラメータ」にキーと値を追加します。

- ・ キー
「resource」を追加
- ・ 値
P.16で控えておいた「サービスのルートURL」のうち、スキームとホスト名部分

< 戻る(B) 次へ(N) > OK 取消

OpenID Connect 1.0認証設定の作成 (4/6)

認可コードの取得を行います。

スコープ

値
openid

クライアント認証方式(M): client_secret_post

上へ(U)
下へ(D)
追加(A)
削除(R)

トークンを発行する...(P)

「必須設定」タブの「スコープ」に openid を追加し、「トークンを発行する」をクリックします。

認可コードの設定

認可コードを取得して、下に貼り付けてください。貼り付けた後に、コピー元のブラウザタブは閉じてください。

認可コード

認可コード取得...

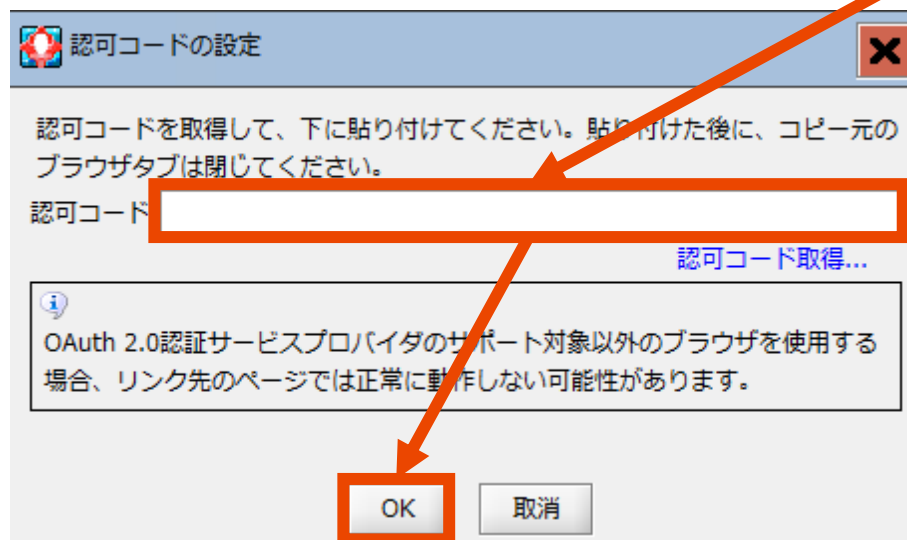
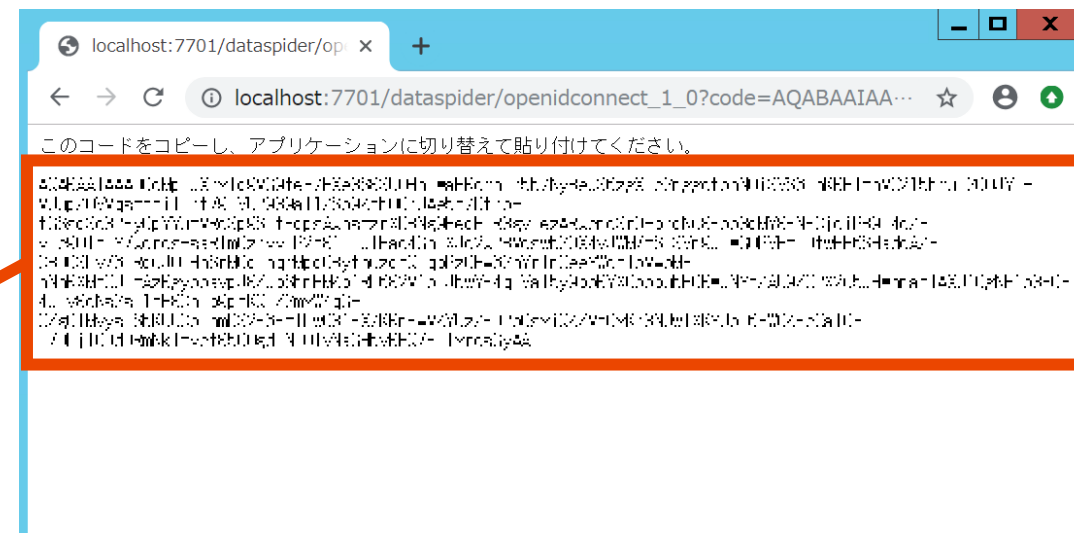
OAuth 2.0認証サービスプロバイダのサポート対象以外のブラウザを使用する場合、リンク先のページでは正常に動作しない可能性があります。

OK 取消

認可コードの設定画面が開くので、「認可コードの取得」のリンクをクリックします。

OpenID Connect 1.0認証設定の作成 (5/6)

取得した認可コードを入力します。



OpenID Connect 1.0認証設定の作成 (6/6)

グローバルリソースの設定を完了します。

「トークンを取得しました」というメッセージが表示されたら「OK」をクリックし登録完了です。

グローバルリソースのプロパティ

接続設定の編集
接続に必要な情報を編集します。

接続名(N): OpenID Connect 1.0認証設定(Dynamics CRM Online 2016 Test)

種別(Y): デフォルト

接続タイプ(R): OAuth 2.0 (OpenID Connect 1.0認証設定)

必須設定 詳細設定 セキュリティ

クライアントID(C): [REDACTED]

クライアントシークレット(S): [REDACTED]

リダイレクトURI(E): http://localhost:7700/dataspider/openidconnect_1_0

OpenID Configuration URL: https://login.microsoftonline.com/[REDACTED]/.well-known/openid-configuration

トークンエンドポイント(I): https://login.microsoftonline.com/[REDACTED]/oauth2/token

JWKS URI: https://login.microsoftonline.com/[REDACTED]/common/discovery/keys

スコープ
openid

クライアント認証方式(M): client_secret_post

成功
トークンを取得しました。
OK

OK 取消



< 免責条項 >

本資料の内容は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されているものであり、今後予告なしに変更されることがあります。よって本資料使用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願いいたします。

なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。